

令和7年度 学校評価について(生徒・保護者・職員アンケートから)

令和7年12月に学校評価のための生徒・保護者アンケートを実施した。昨年度までの評価項目にあった「先生は…」 「学校は…」 という問い方を今年度より「自分は」 「お子様は」にした。「先生は～している(しかし自分に力が身に付いていない)」 「学校は～な取組をしている(しかし我が子に力が身に付いていない)」では、教育活動として十分ではないからである。生徒・保護者アンケートの結果は、今年度の教育活動の成果や課題を考える資料として活用し、次年度の教育活動の改善につなげる。

1. 質問項目

今年度実施した質問項目は、次のとおりである。回答者への具体的な問い方については、結果の表の中で示す。

- ① 「できる」「わかる」学習活動

② タブレット端末を活用した学習活動

③ 自己有用感

④ 日常生活や行事での達成感

⑤ 安心安全な生活環境・危機管理

⑥ SOS の発信・教育相談

⑦ 自己肯定感

⑧ 意欲的な生活・向上心

⑨ 信頼感・指導助言の活用

⑩ 思いやり・自他尊重

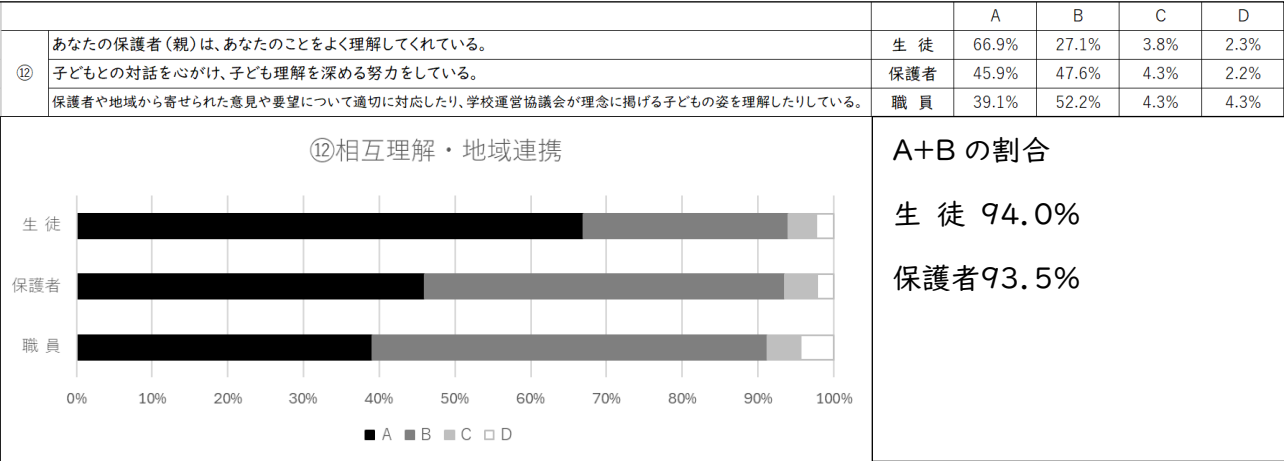
⑪ 情報提供

⑫ 相互理解・地域連携

2. 生徒・保護者の評価が高い(90%以上)項目

生徒及び保護者アンケートの結果で A「当てはまる」と B「どちらかという当てはまる」を合わせた割合が高い傾向にあったものは、項目⑤⑩⑫である。

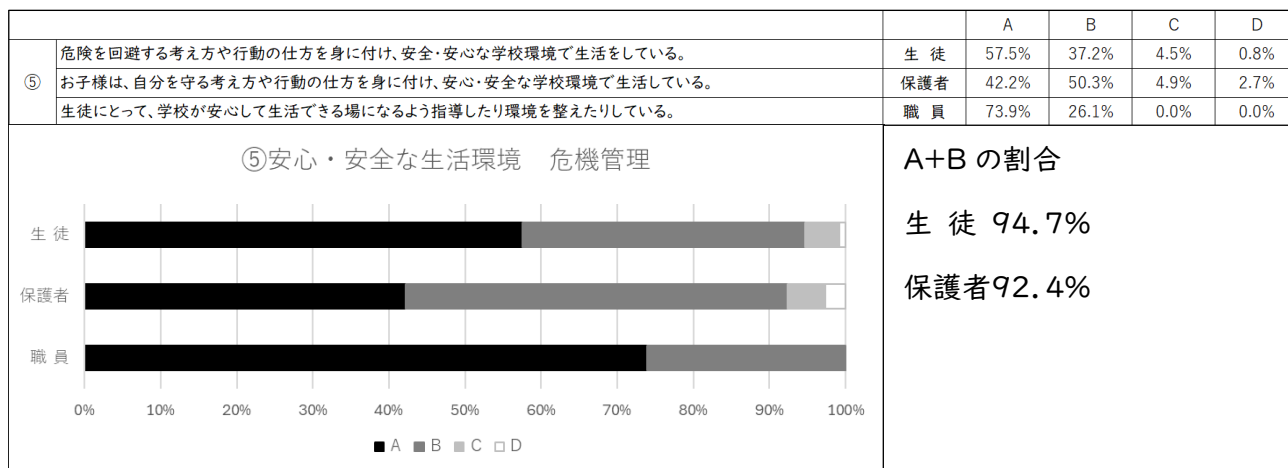
【⑫ 相互理解・地域連携】



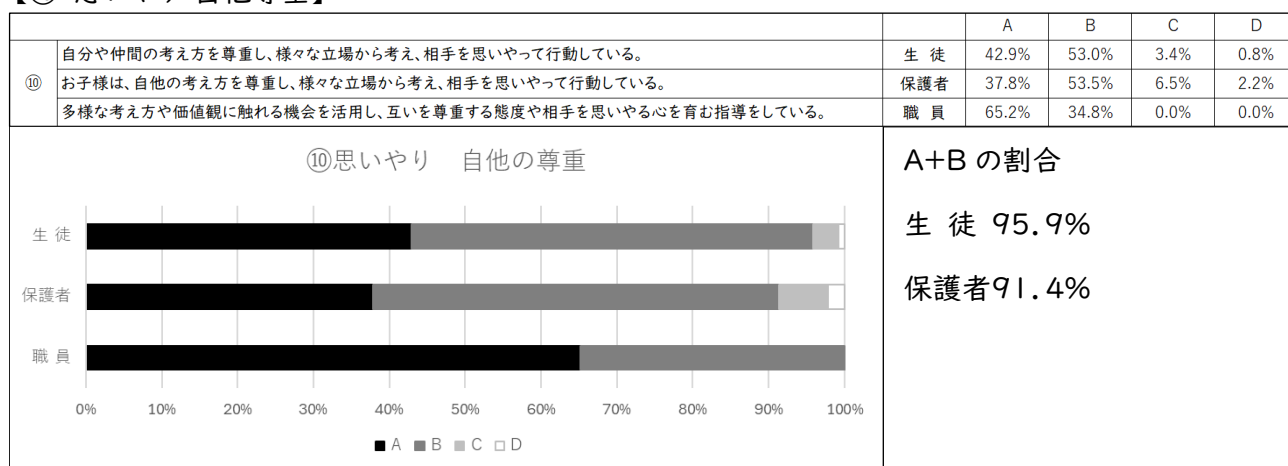
保護者評価では、項目⑫の評価が最も高く、親子のコミュニケーションを大切に、生徒は保護者に支えられて落ち着いた生活を送ることができていることが分かる。職員の評価において、C「どちらかという当てはまらない」とD「当てはまらない」に回答する割合が合わせて8.6%あり、学校運営協議会の理念の浸透が十分とは言えないことは反省点である。学校運営協議会では「地域社会の一員として、人との関わりを大切にして共に最後までやり抜く子の育成」を目標に掲げ、「明るく笑顔であいさつを交わせる」「地域の

一員として協力して活動できる」子を育てることを目指して取り組んでいる。次年度も保護者・地域と連携した教育活動を展開していく。

【⑤ 安心・安全な生活環境・危機管理】



【⑩ 思いやり・自他尊重】

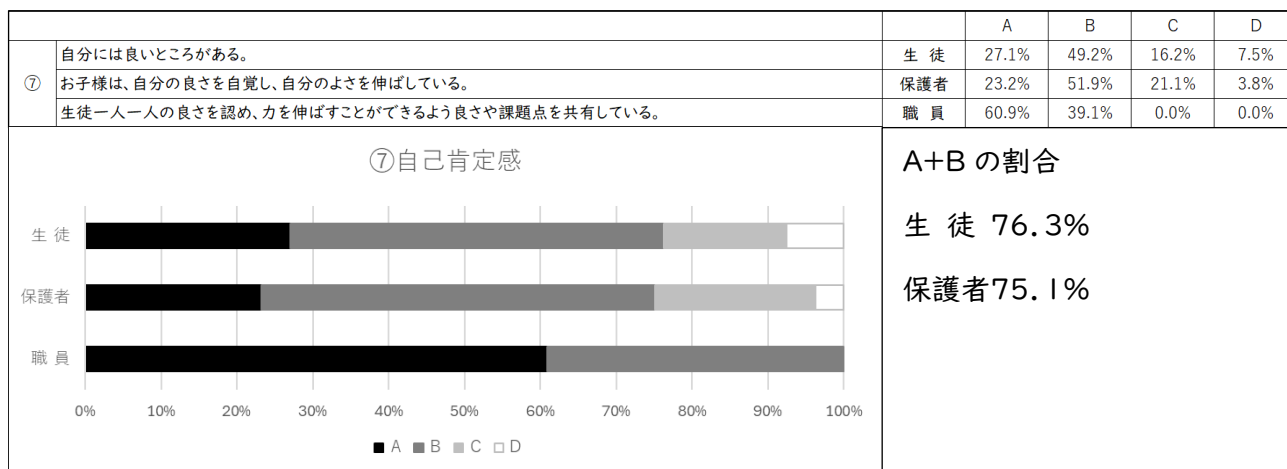


項目⑤⑩の結果からは、学校が、自他を尊重し、思いやって安心・安全な生活をすることができる環境になっていると言える。しかし、「安心・安全ではない」「思いやりをもっていない」と評価する割合がゼロではないことから、生徒の言動や行動、対人関係、集団生活に対する考え方などを把握し、道徳の時間を要とした心の教育をより充実させていくことが課題にある。

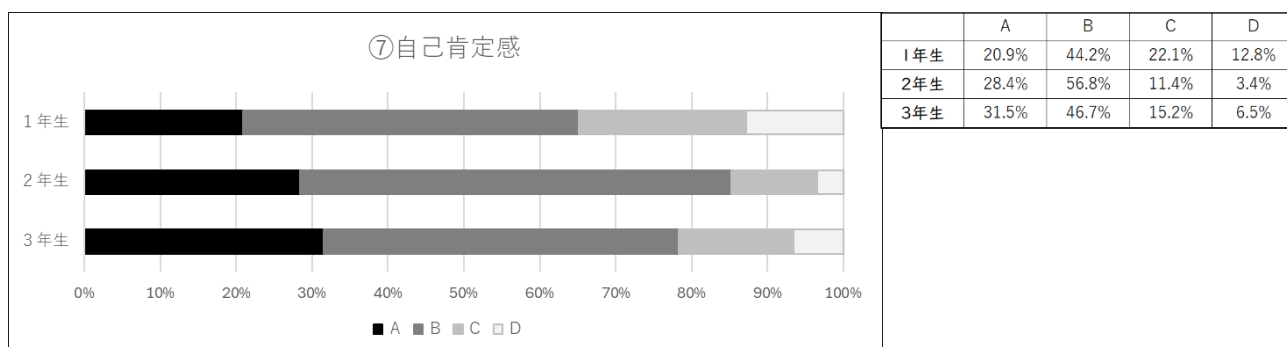
3. 生徒・保護者の評価が低い(80%未満)項目

A「当てはまる」と B「どちらかという当てはまる」を合わせた割合を他の評価項目と比較し低い傾向にあったものは、項目⑥⑦⑧である。

【⑦ 自己肯定感】

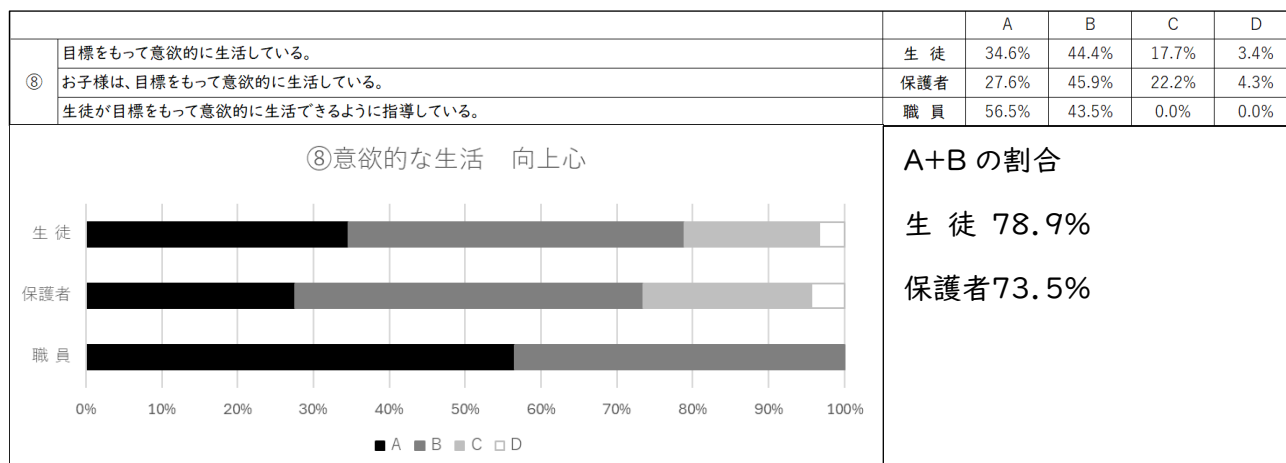


特に生徒の回答において項目⑦の C「どちらかという当てはまらない」と D「当てはまらない」を合わせた割合は 23.7%であり、約4～5人に1人は、「自分にはよいところがあるとは言えない」という思いを抱いている。項目⑦は、第4次の岐阜県教育振興計画の重点項目である「多様な人となつたり、関わる力の向上と心の教育の充実」の指標にもなっており、岐阜県の目標値(90%)からは 13.7 ポイント下回っている。自己肯定感を育むために生徒相互に認め合う活動(よい姿を評価する活動)だけでなく、多様な他者と出会い、つながる機会の創出や他者との望ましい関係を築くコミュニケーション能力、表現力の育成を総合的な学習の時間や各教科の学習活動、道徳の時間等で意図的計画的に実施することが課題である。

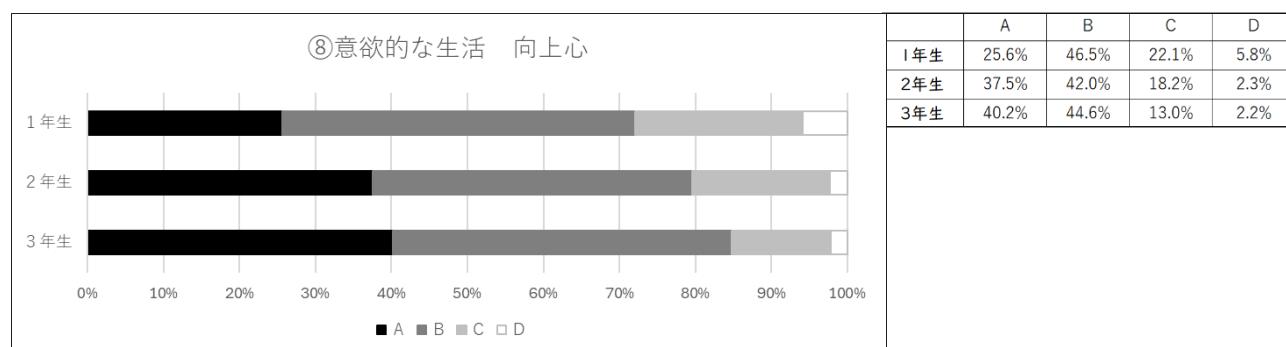


学年別に項目⑦の評価をみると1年生の自己肯定感が他学年と比べて低い。34.9%が「自分にはよいところがあるとは言えない」という思いを抱いていることが分かる。A+B の割合は2年生が最も高く、A「当てはまる」と回答した生徒の割合は3年生が最も高い。自己肯定感を高めるためにも「否定されない、失敗しても大丈夫」と思える人間関係や雰囲気を大切にし、成功体験を積み上げる意図的な指導を継続していく。

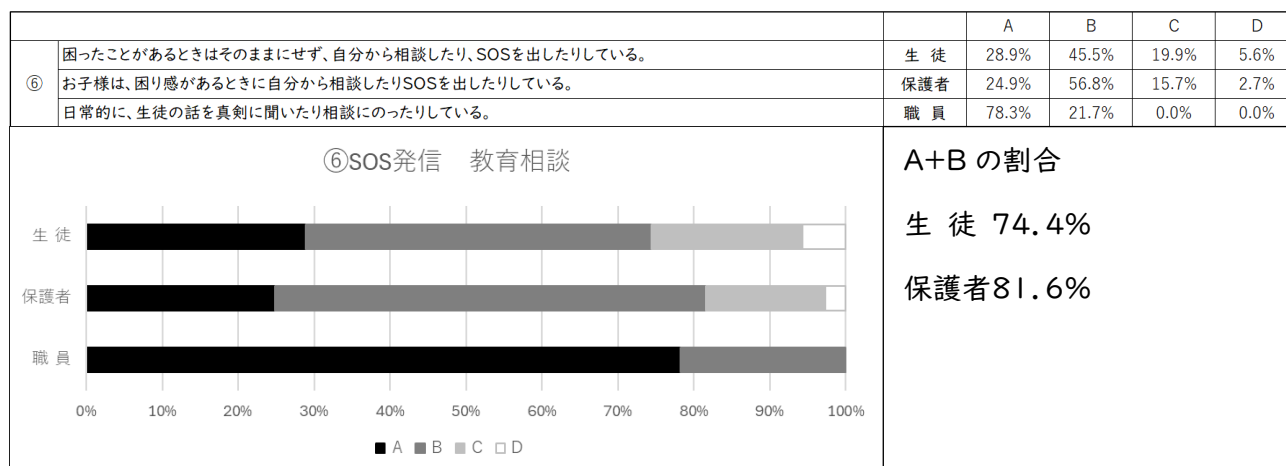
【⑧ 意欲的な生活・向上心】



項目⑧は項目③「自己有用感」と項目⑦「自己肯定感」に関連する内容である。目標をもち自己実現に向けて自己努力できる生徒は、自己肯定感を高めることができる。集団生活の目標や個人の活動目標、学習目標など、学校では様々な場面で目標をもつ機会がある。79%の生徒は「目標をもって意欲的に生活している」と感じているが、約5人に1人は「なんとなく」日々の生活を送っているということだろうか。学年別に回答状況を見ると下グラフのとおりである。3年生であれば進路実現という具体的な目標を必然的に抱くことになるだろうが、どの学年においても毎日の生活や学習活動が、将来の自分の生き方や考え方につながっていることを実感できるよう生徒一人一人と目標を共有し、個に応じた指導をしていくことが求められる。



【⑥ SOS の発信・教育相談】

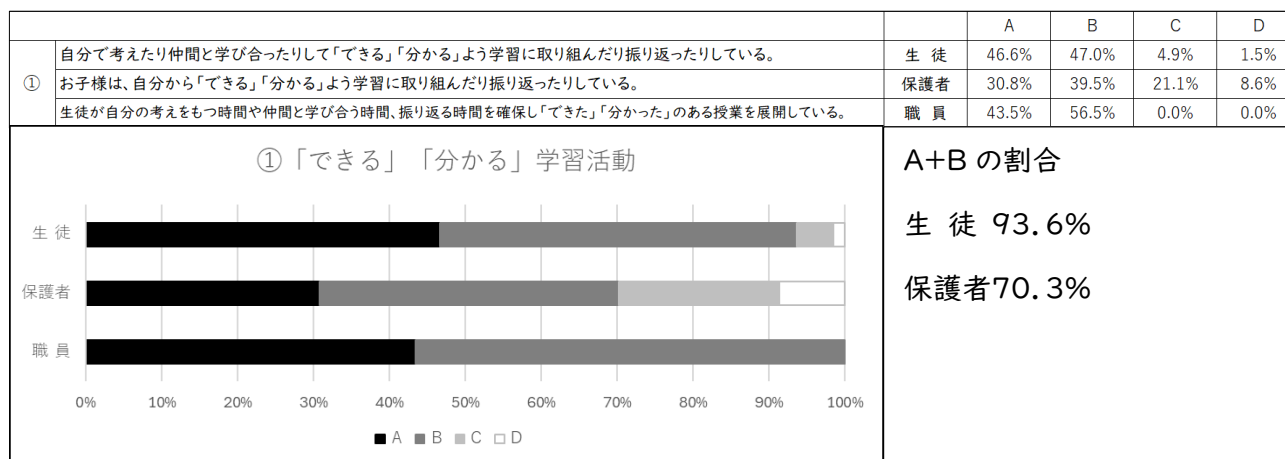


項目⑥は生徒の全質問項目の中で最も A+B の割合が低い結果となった。全校生徒の4人に1人は、困ったことがあるときに自分から相談したり SOS を出したりすることができていない(していない)傾向にある。困ったことがあるときはそのままにせず、身近にいる信頼できる大人に相談しようとする態度を育ていくためにも「相談してよかった」と実感できる校内体制の強化が必要である。これまでも実施しているが、生徒が抱えている困り感を定期的なアンケートや個別の教育相談で早期に把握し、スクールカウンセラー等の専門職員によるアセスメントなどを含めたケース会議や個に応じた指導・対応の実施を組織的継続的に行っていく。職員が時間に追われ、生徒個人と向き合う心の余裕がなくなることは避けなければならない。生徒が「困っている。相談がある。」と言ってきたときにじっくりと向き合えるよう、職員自身も「困っている。相談がある。」と互いに伝えあい、組織で協議・対応・解決していく体制を今後も大切にしていく。

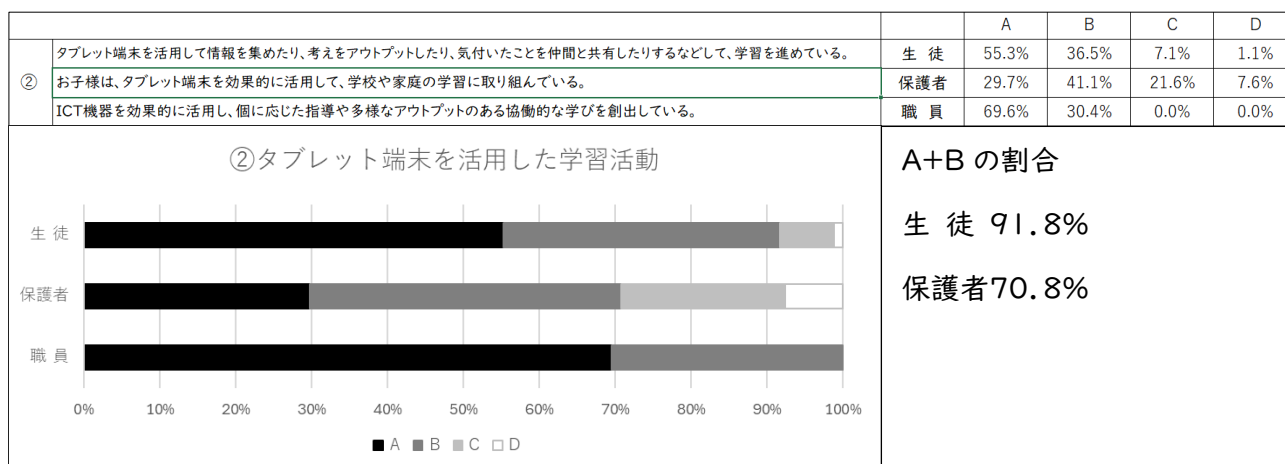
4. 生徒の評価が高く(90%以上)保護者の評価が低い(71%未満)項目

保護者アンケートの結果で A「当てはまる」と B「どちらかという当てはまる」を合わせた割合が低い傾向にあったものは、項目①②である。

【① 「できる」「分かる」学習活動】



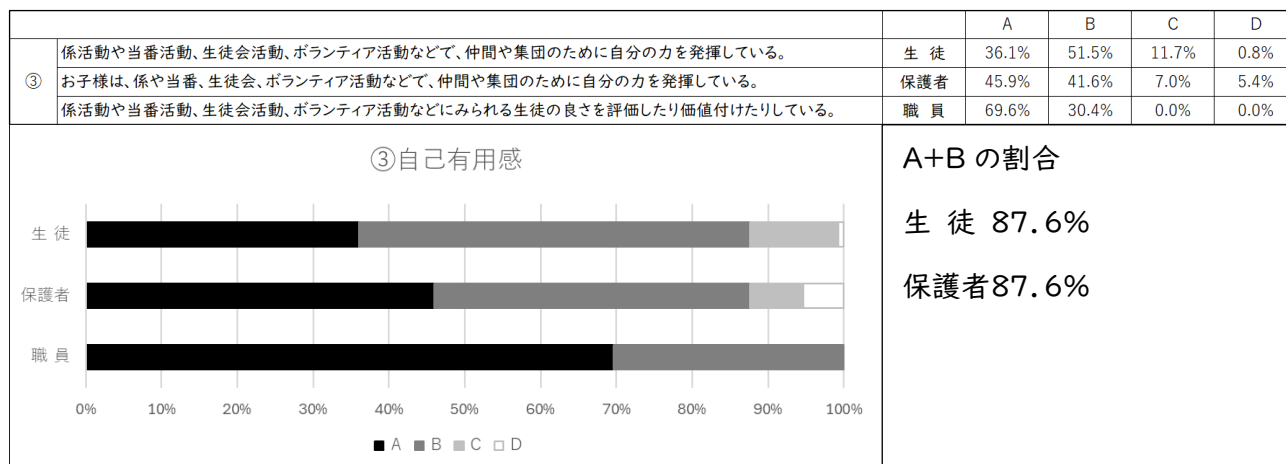
【② タブレット端末を活用した学習活動】



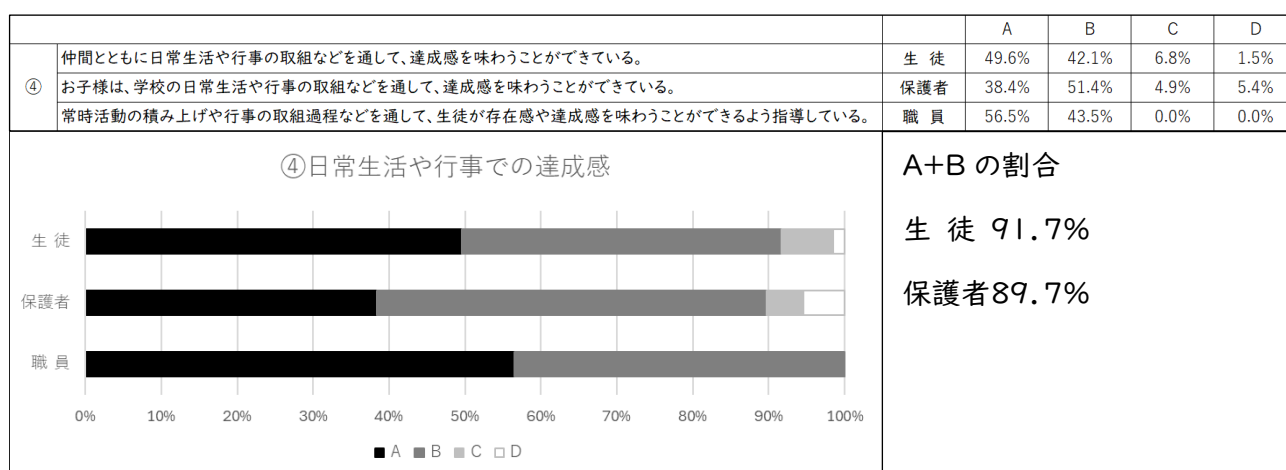
項目①②は「学習活動」に関する項目であるが、生徒評価と 20 ポイント以上の差があることから、保護者の期待と生徒の実感に開きがあることが分かる。職員は「できる・分かる」ように学習活動を行っているが、約 30%の保護者から我が子は「できている・分かっている」とは言い難いとの評価になっている。本校では、ICT 機器を活用して、単元（題材）の見通しをもつことができるようにし、個人の学習課題や学習状況に応じた手立てを講じながら学習指導に取り組んでいる。授業改善により生徒が主体的に仲間との対話しながら学習課題の解決に向かう活動を展開している。生徒が身に付けた知識・技能を活用し「正確に出力する」ことができることは、今年度から引き続きの課題である。次年度も ICT 機器を活用し学習活動に見通しをもつことができるよう指導することを継続する。そして、「テキストを読む」「図や表などを読み取る」「解決したいこととして課題をもつ」「自分なりの考えをもつ」「仲間と見方や考え方を交流する」「学んだこと分かったことを自分の言葉で記述し振り返る」などの言語活動を充実させ、「できた・分かった」ことを活用し、表現することができる力を育成していく。

5. 他の項目

【③ 自己有用感】

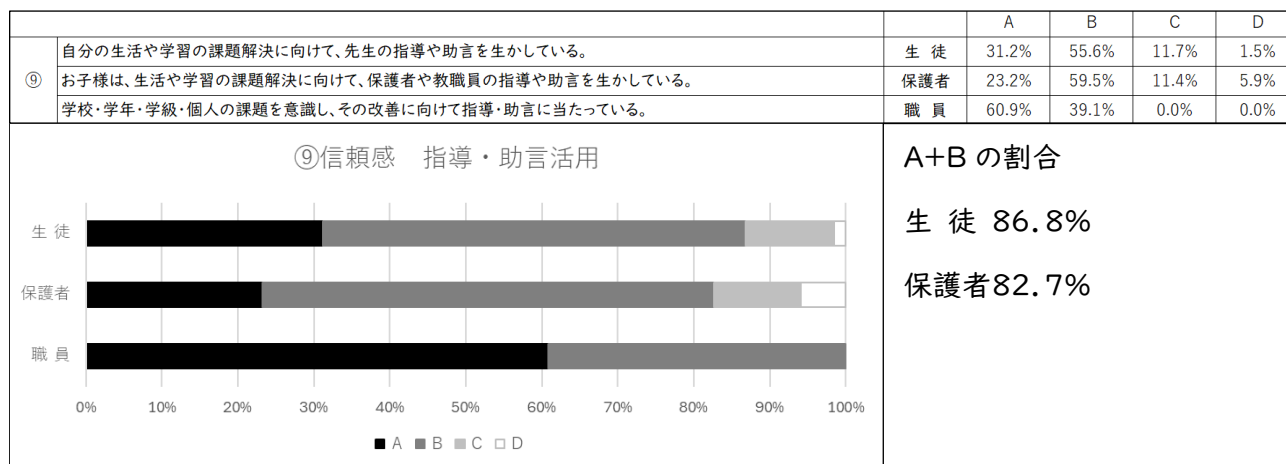


【④ 日常生活や行事での達成感】



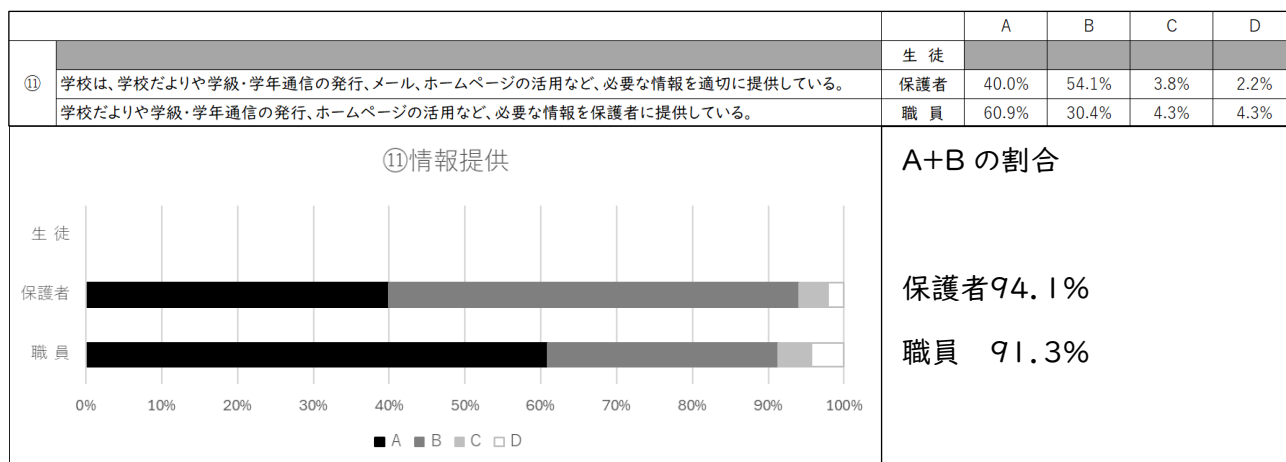
項目③④からは、学校生活において自分の力を発揮することができ、達成感を味わうことができていることが分かる。しかし、前述の項目⑦「自己肯定感」と項目⑧「意欲的な生活・向上心」の評価が項目③④に対し10ポイント程度下回っていることに、本校の課題がある。係活動や委員会活動、学校行事等を通して生徒は自己有用感や達成感を味わっているが、自己肯定感や向上心が同じ値にならないのはどうしてだろうか。本校の生徒は集団で取り組むことや集団生活の向上に関わる活動をすることに肯定的である。職員やリーダーとなる生徒の呼びかけ・提案に対し、従順に対応する。「やろう」と言われたことや「やること」として決まっていることについて、「やる」ことで「やった」気持ちはあるが、自分の願いや目標を抱いてやっているわけではないということだろうか。係活動や委員会活動、学校行事等、特別活動への取組は良好な傾向にあると言えるが、生徒自身が願いをもち、集団生活を向上させようと一人一人が自発的創造的に参画できているかを見取り、指導していくことが肝要である。

【⑨ 信頼感 指導・助言活用】



項目⑨の結果は、相互の信頼関係によるものである。人は信頼できる人からしか学ばないものである。生徒から「この人の言うことは納得できる」「この人から学びたい」と信頼感を得られるよう確かな指導力を身に付け、望ましい関係形成に努めていく。教職員として学び続ける姿勢を継続していくことが肝要である。

【⑪ 情報提供】



4月から1月末までの10か月間に、中学校から全保護者宛に98通のメールを送信している。そのうち重要通知メールが4通（給食や下校時刻の訂正等）、緊急通知メールが9通（学級閉鎖や臨時休業、当日の下校時刻変更等）である。主にメールによる情報配信をしているが、通常の連絡メールでは、平均して全保護者の23.7%が未読のままである（重要メールは19.5%が未読、緊急メールは12.7%が未読）ことから、内容により全保護者に周知できるよう文書による連絡をメールと合わせて実施してきた。保護者の評価では高い評価を得ることができているが、学校だより・学年通信・学級通信など、デジタルを中心とした情報発信の在り方を周知し、紙の使用量削減へ引き続き努力していく。

今年度は、昨年度まで6年間継続してきた質問項目を変更して実施したため、前年度との比較はない。数値の高低だけではなく、生徒・保護者の評価を真摯に受け止め、アンケート結果から考えられる課題を改善すべきこととして次年度につなげていく。

学校教育に関するアンケート評価の結果

学校教育に関するアンケート評価の結果							AとBを	CとDを
令和7年度 学校の教育目標 志をもって生きる			評価（％）				合わせた	合わせた
			A	B	C	D	割合％	割合％
①	自分で考えたり仲間と学び合ったりして「できる」「分かる」よう学習に取り組んだり振り返ったりしている。	生 徒	46.6%	47.0%	4.9%	1.5%	93.6%	6.4%
	お子様は、自分から「できる」「分かる」よう学習に取り組んだり振り返ったりしている。	保護者	30.8%	39.5%	21.1%	8.6%	70.3%	29.7%
	生徒が自分の考えをもつ時間や仲間と学び合う時間、振り返る時間を確保し「できた」「分かった」のある授業を展開している。	職 員	43.5%	56.5%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
②	タブレット端末を活用して情報を集めたり、考えをアウトプットしたり、気付いたことを仲間と共有したりするなどして、学習を進めている。	生 徒	55.3%	36.5%	7.1%	1.1%	91.7%	8.3%
	お子様は、タブレット端末を効果的に活用して、学校や家庭の学習に取り組んでいる。	保護者	29.7%	41.1%	21.6%	7.6%	70.8%	29.2%
	ICT機器を効果的に活用し、個に応じた指導や多様なアウトプットのある協働的な学びを創出している。	職 員	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
③	係活動や当番活動、生徒会活動、ボランティア活動などで、仲間や集団のために自分の力を発揮している。	生 徒	36.1%	51.5%	11.7%	0.8%	87.6%	12.4%
	お子様は、係や当番、生徒会、ボランティア活動などで、仲間や集団のために自分の力を発揮している。	保護者	45.9%	41.6%	7.0%	5.4%	87.6%	12.4%
	係活動や当番活動、生徒会活動、ボランティア活動などにみられる生徒の良さを評価したり価値付けたりしている。	職 員	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
④	仲間とともに日常生活や行事の取組などを通して、達成感を味わうことができている。	生 徒	49.6%	42.1%	6.8%	1.5%	91.7%	8.3%
	お子様は、学校の日常生活や行事の取組などを通して、達成感を味わうことができている。	保護者	38.4%	51.4%	4.9%	5.4%	89.7%	10.3%
	常時活動の積み上げや行事の取組過程などを通して、生徒が存在感や達成感を味わうことができるよう指導している。	職 員	56.5%	43.5%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
⑤	危険を回避する考え方や行動の仕方を身に付け、安全・安心な学校環境で生活をしている。	生 徒	57.5%	37.2%	4.5%	0.8%	94.7%	5.3%
	お子様は、自分を守る考え方や行動の仕方を身に付け、安心・安全な学校環境で生活している。	保護者	42.2%	50.3%	4.9%	2.7%	92.4%	7.6%
	生徒にとって、学校が安心して生活できる場になるよう指導したり環境を整えたりしている。	職 員	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
⑥	困ったことがあるときはそのままにせず、自分から相談したり、SOSを出したりしている。	生 徒	28.9%	45.5%	19.9%	5.6%	74.4%	25.6%
	お子様は、困り感があるときに自分から相談したりSOSを出したりしている。	保護者	24.9%	56.8%	15.7%	2.7%	81.6%	18.4%
	日常的に、生徒の話を真剣に聞いたり相談にのったりしている。	職 員	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
⑦	自分には良いところがある。	生 徒	27.1%	49.2%	16.2%	7.5%	76.3%	23.7%
	お子様は、自分の良さを自覚し、自分のよさを伸ばしている。	保護者	23.2%	51.9%	21.1%	3.8%	75.1%	24.9%
	生徒一人一人の良さを認め、力を伸ばすことができるよう良さや課題点を共有している。	職 員	60.9%	39.1%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
⑧	目標をもって意欲的に生活している。	生 徒	34.6%	44.4%	17.7%	3.4%	78.9%	21.1%
	お子様は、目標をもって意欲的に生活している。	保護者	27.6%	45.9%	22.2%	4.3%	73.5%	26.5%
	生徒が目標をもって意欲的に生活できるように指導している。	職 員	56.5%	43.5%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
⑨	自分の生活や学習の課題解決に向けて、先生の指導や助言を生かしている。	生 徒	31.2%	55.6%	11.7%	1.5%	86.8%	13.2%
	お子様は、生活や学習の課題解決に向けて、保護者や教職員の指導や助言を生かしている。	保護者	23.2%	59.5%	11.4%	5.9%	82.7%	17.3%
	学校・学年・学級・個人の課題を意識し、その改善に向けて指導・助言に当たっている。	職 員	60.9%	39.1%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
⑩	自分や仲間の考え方を尊重し、様々な立場から考え、相手を思いやって行動している。	生 徒	42.9%	53.0%	3.4%	0.8%	95.9%	4.1%
	お子様は、自他の考え方を尊重し、様々な立場から考え、相手を思いやって行動している。	保護者	37.8%	53.5%	6.5%	2.2%	91.4%	8.6%
	多様な考え方や価値観に触れる機会を活用し、互いを尊重する態度や相手を思いやる心を育む指導をしている。	職 員	65.2%	34.8%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
⑪		生 徒						
	学校は、学校だよりや学級・学年通信の発行、メール、ホームページの活用など、必要な情報を適切に提供している。	保護者	40.0%	54.1%	3.8%	2.2%	94.1%	5.9%
	学校だよりや学級・学年通信の発行、ホームページの活用など、必要な情報を保護者に提供している。	職 員	60.9%	30.4%	4.3%	4.3%	91.3%	8.7%
⑫	あなたの保護者（親）は、あなたのことをよく理解してくれている。	生 徒	66.9%	27.1%	3.8%	2.3%	94.0%	6.0%
	子どもとの対話を心がけ、子ども理解を深める努力をしている。	保護者	45.9%	47.6%	4.3%	2.2%	93.5%	6.5%
	保護者や地域から寄せられた意見や要望について適切に対応したり、学校運営協議会が理念に掲げる子どもの姿を理解したりしている。	職 員	39.1%	52.2%	4.3%	4.3%	91.3%	8.7%